

令和元年度協働に関する職員アンケート 集計結果

1. 調査対象

正規職員（嘱託、再任用、臨時職員除く。）

2. 調査形式

無記名式アンケート調査

3. 調査期間

令和2年2月7日～令和2年2月21日

4. 調査数及び回答数

調査数：558名	前回より5名減少
回答数：435名	前回より17名増加
回答率：78.0%	前回より3.8ポイント増加

5. 調査方法

調査票を各課に人数分配布

6. 結果概要

今回実施したアンケートの結果、90%以上の職員が「協働」という言葉を聞いたことがありました。また、「よく意味を知っている」職員と「だいたい意味を知っている」職員の合計は81.6%となり、平成29年度のアンケートより6ポイント増加しました。

協働の経験については、「協働した経験がある」職員が43.7%となり、平成29年度のアンケートより4.7ポイント増加しました。また、今後長岡京市で協働を進めることが「必要だと思う」と回答した職員は44.6%であり、協働をした経験がある職員は、協働をした経験がない職員と比べて、協働が「必要だと思う」と回答した割合が、13.5ポイント高い結果となりました。

各問の回答の詳細は、次ページ以降をご覧ください。

○ 内の数値は前回の平成29年度のアンケート結果を表示しています。

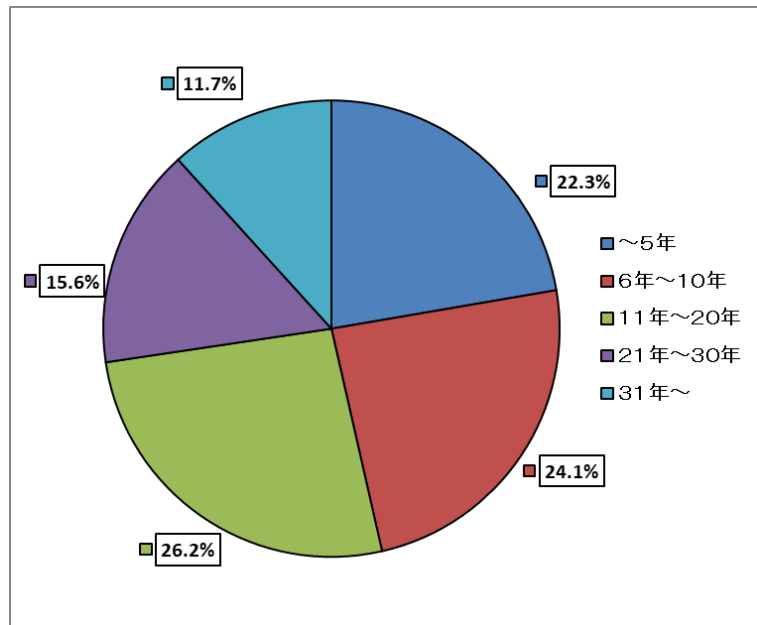
アンケートへのご協力ありがとうございました。



● 問1. あなた自身のことについておたずねします。(令和2年1月1日時点の状況でお答え下さい。)

◆ 1-1. 長岡京市役所職員となって何年目ですか？

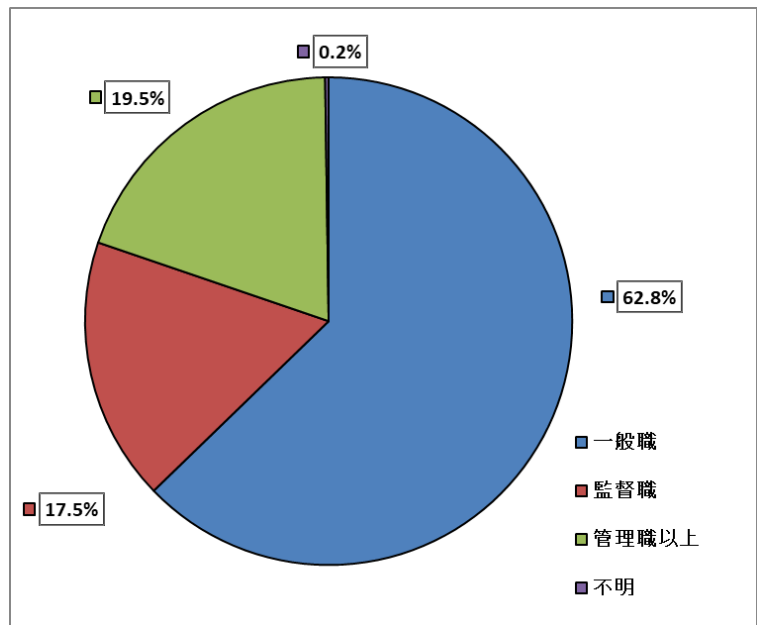
回答	計
～5年	97
6年～10年	105
11年～20年	114
21年～30年	68
31年～	51



➤ 「～10年」までが全体のおおよそ半数を占めています。

◆ 1-2. 現在の職級をお答えください。

回答	計
一般職	273
監督職	76
管理職以上	85
不明	1

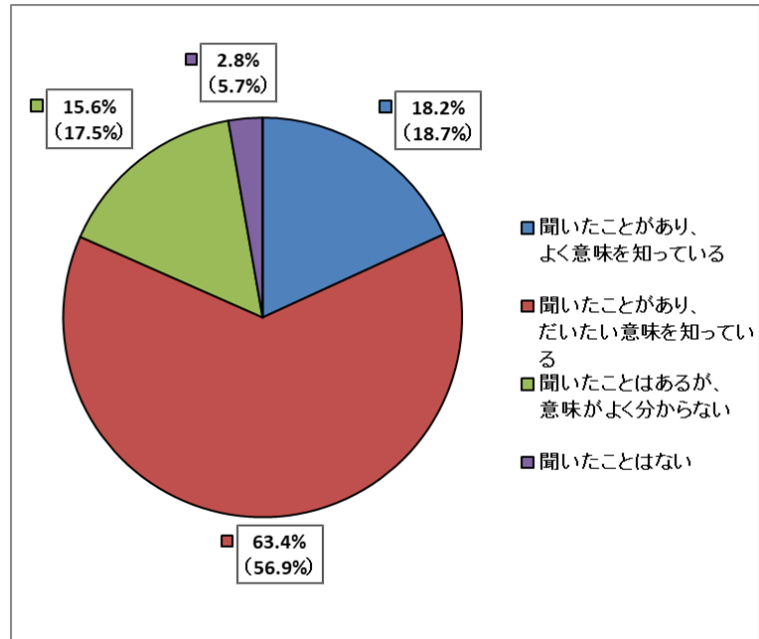


➤ 「一般職」が最も多く、続いて「管理職以上」が多くなっています。

※問2以降の設問については、年数ごと、職級ごとに表にしています。

- 問2. 「協働」に関わること全般についておたずねします。
 - ◆ 2-1. 「協働」という言葉を聞いたことがありますか？また「協働」とは「異なる立場の人が、得意な分野の力を出し合い、共通の課題・目的に向かって責任を持って取り組むこと」という意味だと知っていますか？

回答	計
聞いたことがあります、よく意味を知っている	79(78)
聞いたことがあります、だいたい意味を知っている	276(238)
聞いたことはあるが、意味がよく分からない	68(73)
聞いたことはない	12(24)
不明	0(5)



【年数別】

回答	～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	31年～
聞いたことがあります、よく意味を知っている	12(20)	22(20)	20(12)	9(10)	16(16)
聞いたことがあります、だいたい意味を知っている	67(61)	64(63)	77(50)	41(27)	27(37)
聞いたことはあるが、意味がよく分からない	17(19)	19(18)	13(14)	14(13)	5(9)
聞いたことはない	1(0)	0(3)	4(5)	4(14)	3(2)
不明	0(0)	0(1)	0(0)	0(2)	0(2)

【職級別】

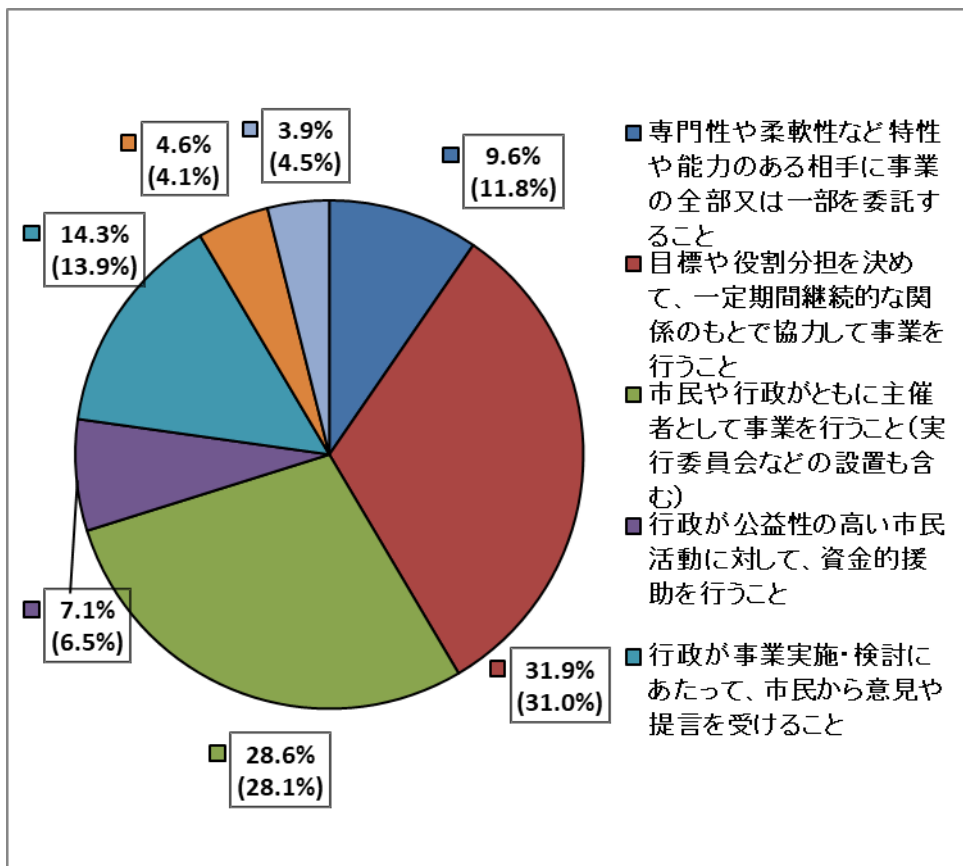
回答	一般職	監督職	管理職以上	不明
聞いたことがあります、よく意味を知っている	29(37)	12(18)	38(22)	0(1)
聞いたことがあります、だいたい意味を知っている	170(155)	59(47)	47(36)	0(0)
聞いたことはあるが、意味がよく分からない	62(62)	5(9)	0(1)	1(1)
聞いたことはない	12(22)	0(1)	0(0)	0(1)
不明	0(1)	0(2)	0(2)	0(0)

- 全体では、「聞いたことがあります、だいたい意味を知っている」が最も多くなっており、よく意味を知っていると合わせると約82%となります。職級別では、「聞いたことはない」「意味がよく分からない」の大半が「一般職」となっています。

◆ 2-2.「協働」について、あなたのイメージに近いものをお答えください。

(当てはまること全てに○)

回答	計
専門性や柔軟性など特性や能力のある相手に事業の全部又は一部を委託すること	88(110)
目標や役割分担を決めて、一定期間継続的な関係のもとで協力して事業を行うこと	293(289)
市民や行政がともに主催者として事業を行うこと(実行委員会などの設置も含む)	263(262)
行政が公益性の高い市民活動に対して、資金的援助を行うこと	65(61)
行政が事業実施・検討にあたって、市民から意見や提言を受けること	131(130)
行政が資金援助以外に、名義後援などの支援を行うこと	42(38)
協働という言葉の意味がよく分からないので、特にイメージを持っていない	36(42)



【年数別】

回答	～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	31年～
専門性や柔軟性など特性や能力のある相手に事業の全部又は一部を委託すること	20(33)	22(31)	24(23)	12(8)	10(15)
目標や役割分担を決めて、一定期間継続的な関係のもとで協力して事業を行うこと	62(73)	73(76)	84(60)	43(35)	31(45)
市民や行政がともに主催者として事業を行うこと(実行委員会などの設置も含む)	56(70)	66(74)	73(46)	36(31)	32(41)
行政が公益性の高い市民活動に対して、資金的援助を行うこと	11(10)	19(19)	19(13)	9(7)	7(12)
行政が事業実施・検討にあたって、市民から意見や提言を受けること	29(32)	42(36)	33(29)	13(13)	14(20)
行政が資金援助以外に、名義後援などの支援を行うこと	9(8)	10(12)	11(6)	5(5)	7(7)
協働という言葉の意味がよく分からないので、特にイメージを持っていない	7(5)	4(4)	7(9)	12(19)	6(5)

【職級別】

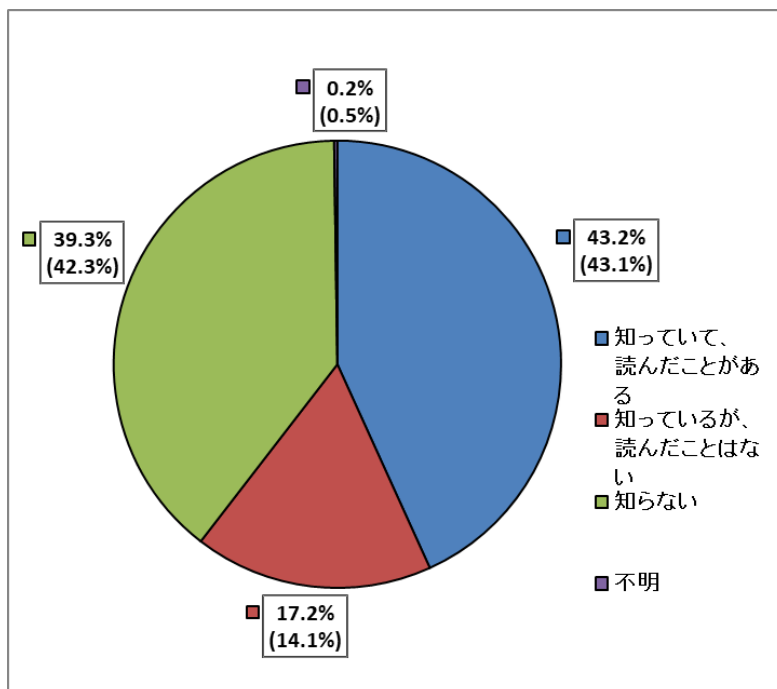
回答	一般職	監督職	管理職以上	不明
専門性や柔軟性など特性や能力のある相手に事業の全部又は一部を委託すること	51(70)	16(21)	20(19)	1(0)
目標や役割分担を決めて、一定期間継続的な関係のもとで協力して事業を行うこと	161(172)	61(65)	71(51)	0(1)
市民や行政がともに主催者として事業を行うこと(実行委員会などの設置も含む)	154(170)	49(51)	60(41)	0(0)
行政が公益性の高い市民活動に対して、資金的援助を行うこと	32(28)	16(18)	17(15)	0(0)
行政が事業実施・検討にあたって、市民から意見や提言を受けること	78(82)	25(27)	28(21)	0(0)
行政が資金援助以外に、名義後援などの支援を行うこと	20(18)	11(10)	11(10)	0(0)
協働という言葉の意味がよく分からないので、特にイメージを持っていない	36(38)	0(2)	0(0)	0(2)

- 全体では、「目標や役割分担を決めて、一定期間継続的な関係のもとで協力して事業を行うこと」がもっとも多く、続いて「市民や行政がともに主催者として事業を行うこと（実行委員会などの設置も含む）」の回答が多くなっています。一方で、「行政が公益性の高い市民活動に対して、資金的援助を行うこと」「行政が資金援助以外に、名義後援などの支援を行うこと」の割合は回答数が少ない傾向にあります。職級別では、「協働という言葉の意味がよく分からないので、特にイメージを持っていない」と回答した職員は全て「一般職」でした。



◆ 2-3. 協働ワーキング発行の「とつげき！となりの市民協働」を知っていますか？
また読んだことがありますか？

回答	計
知っていて、 読んだことがある	188(180)
知っているが、 読んだことはない	75(59)
知らない	171(177)
不明	1(2)



【年数別】

回答	～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	31年～
知っていて、読んだことがある	28(39)	56(54)	58(40)	25(19)	21(28)
知っているが、読んだことはない	18(11)	17(13)	17(11)	11(10)	12(14)
知らない	50(50)	32(38)	39(30)	32(36)	18(23)
不明	1(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(1)

【職級別】

回答	一般職	監督職	管理職以上	不明
知っていて、読んだことがある	87(98)	45(44)	56(37)	0(1)
知っているが、読んだことはない	45(32)	15(14)	15(13)	0(0)
知らない	140(146)	16(19)	14(10)	1(2)
不明	1(1)	0(0)	0(1)	0(0)

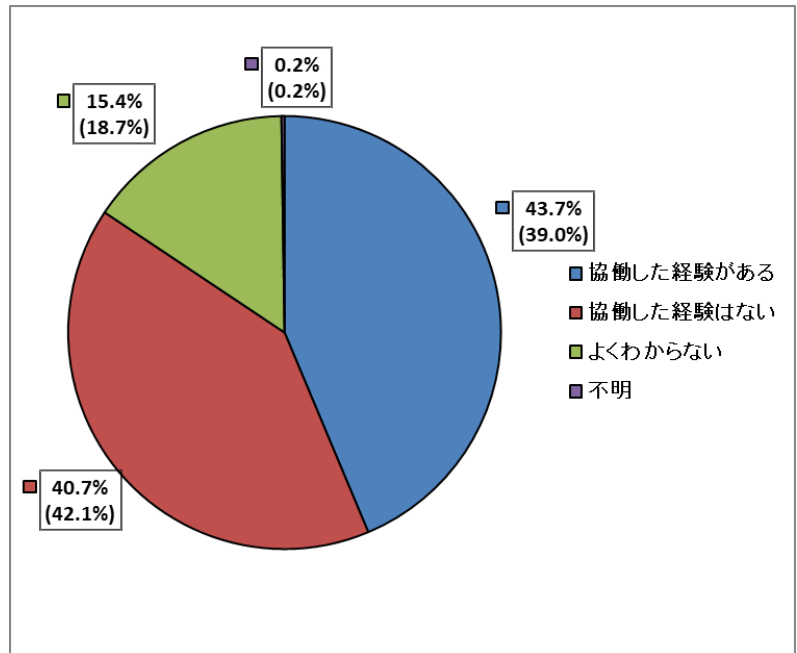
- 全体では、平成 29 年度のアンケートと比べて「知らない」と回答した職員の割合は減少しましたが、「知っているが、読んだことはない」と回答した職員の割合は増加しています。知っている職員の約7割は読んでいる結果となりましたが、知らない職員への周知が課題となっています。また、職級別では、「知らない」と回答した職員の約8割が一般職となっています。

感想・今後取り上げてほしい内容

- ・あっと驚くような協働の他市の事例を教えてください。真似したくなるような…。
- ・事例を通し、協働していて困ったこと、課題（失敗した、気を付けておくこと）を共有しておきたい。
- ・協働について理解するきっかけになり良い。こういう読み物だと読みやすい。がんばってください。
- ・最近発行がないように思います。
- ・最近、新鮮味がなくなってきている。もう少し独創性がほしい。
- ・最近見していない。協働ニュースも更新がなく、この質問の意味がない。
- ・市民活動団体の世代交代・新陳代謝
- ・「とつげき！となりの市民協働」を読んで日々、勉強しています。
- ・研修の様子などが載っていて分かりやすかった。
- ・NPO 等インターン体験記
- ・様々な取り組みの周知と職員へのさらなる意識づけが重要
- ・職員の個性が伝わってきてよい
- ・当初の勢いが減ってきている印象。長く続けている取り組みならではの苦労や成果の紹介
- ・最近見ないような…
- ・社協にもぜひインタビューに来てください。
- ・若手職員の目線からイメージしにくい協働について分かりやすさを重視しており、理解しやすい、読みやすい。
- ・地域にいろいろな団体があることを知れてよかった。
- ・親しみやすくわかりやすい

- 問3. あなた自身と協働についておたずねします。
 - ◆ 3-1. これまでの担当業務の中で、個人や市民（地域）活動団体等（以下、市民活動団体等）と協働した経験はありますか？

回答	計
協働した経験がある	190(163)
協働した経験はない	177(176)
よくわからない	67(78)
不明	1(1)



【年数別】

回答	～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	31年～
協働した経験がある	36(36)	45(36)	53(36)	30(22)	26(33)
協働した経験はない	47(43)	41(52)	48(30)	22(23)	19(28)
よくわからない	13(21)	19(17)	13(15)	16(20)	6(5)
不明	1(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)

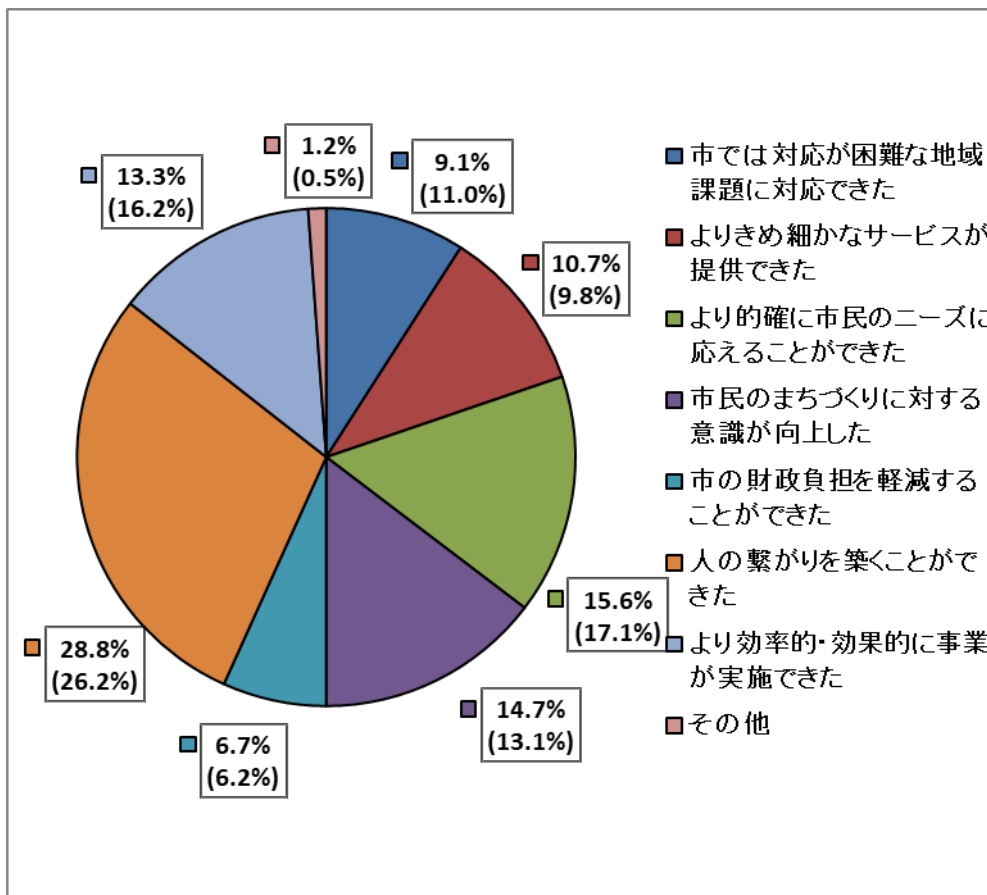
【職級別】

回答	一般職	監督職	管理職以上	不明
協働した経験がある	91(83)	42(40)	57(39)	0(1)
協働した経験はない	124(125)	27(29)	25(21)	1(1)
よくわからない	57(69)	7(8)	3(0)	0(1)
不明	1(0)	0(0)	0(1)	0(0)

- 「よくわからない」の回答を除くと半数以上の職員が「協働した経験がある」でした。平成29年度のアンケートと比較すると、「協働した経験がある」職員の割合は4.7ポイント増加しました。年数別では大きな違いはありませんが、階級別では、一般職が「協働した経験はない」と回答した職員の約7割を占めていました。

- ◆ 3-2. 問3-1で「① 協働した経験がある」を選んだ方にお聞きします。
 協働したことでどのような成果がありましたか。(当てはまること全てに〇)

回答	計
市では対応が困難な地域課題に対応できた	39(46)
よりきめ細かなサービスが提供できた	46(41)
よりの確に市民のニーズに応えることができた	67(72)
市民のまちづくりに対する意識が向上した	63(55)
市の財政負担を軽減することができた	29(26)
人の繋がりを築くことができた	124(110)
より効率的・効果的に事業が実施できた	57(68)
その他	5(2)



【年数別】

回答	～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	31年～
市では対応が困難な地域課題に対応できた	3(7)	15(13)	8(11)	5(6)	8(9)
よりきめ細かなサービスが提供できた	7(8)	13(7)	11(11)	7(5)	8(10)
よりの確に市民のニーズに応えることができた	9(14)	15(11)	15(19)	12(12)	16(16)
市民のまちづくりに対する意識が向上した	9(9)	13(11)	16(13)	12(9)	13(13)
市の財政負担を軽減することができた	4(3)	7(7)	12(6)	2(2)	4(8)
人の繋がりを築くことができた	21(23)	32(25)	33(23)	24(19)	14(20)
より効率的・効果的に事業が実施できた	10(14)	9(17)	19(17)	11(6)	8(14)
その他	2(1)	1(0)	2(0)	0(1)	0(0)

【職級別】

回答	一般職	監督職	管理職以上	不明
市では対応が困難な地域課題に対応できた	16(18)	5(14)	18(14)	0(0)
よりきめ細かなサービスが提供できた	20(16)	7(12)	19(13)	0(0)
よりの確に市民のニーズに応えることができた	24(31)	20(20)	23(20)	0(1)
市民のまちづくりに対する意識が向上した	23(24)	14(15)	26(15)	0(1)
市の財政負担を軽減することができた	12(9)	7(7)	10(10)	0(0)
人の繋がりを築くことができた	57(54)	26(27)	41(28)	0(1)
より効率的・効果的に事業が実施できた	21(36)	14(16)	22(16)	0(0)
その他	4(2)	0(0)	1(0)	0(0)

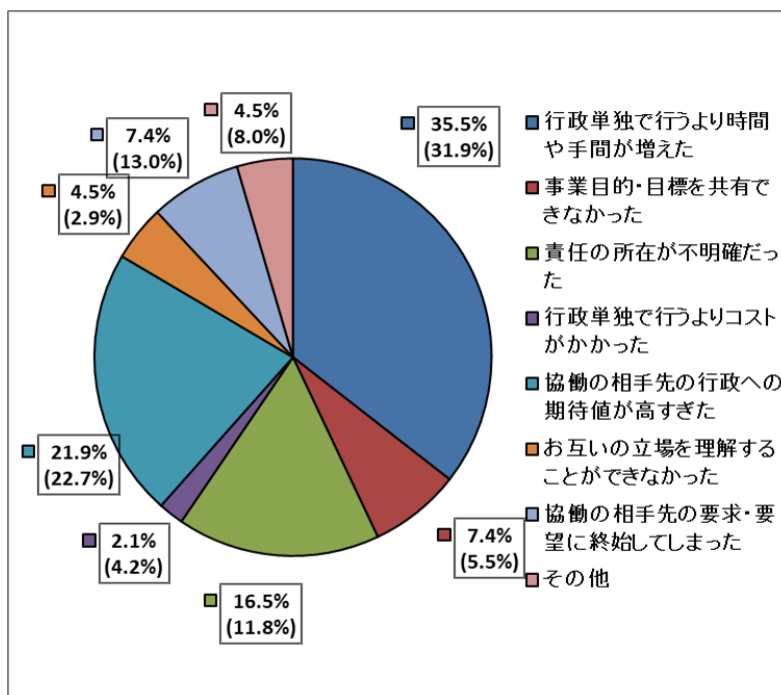
- 最も回答が多かったのは、「人の繋がりを築くことができた」となりました。一方で「市の財政負担を軽減することができた」は他の選択肢と比べてやや少ない結果となりました。年数別、職級別による傾向はなく、全体として同じ結果となりました。

その他

- ・対等な立場で、同じ課題に対して向き合うことができたことと、それをきっかけに交流がうまれた。
- ・地域のことを知ることができた。
- ・現在進行中であり、まだ成果は出ていない。
- ・協働事業を担当していたが、市の担当の役割が多すぎる。市民の協力が少ない気がする。

- ◆ 3-3. 問3-1で「① 協働した経験がある」を選んだ方にお聞きます。
 協働したことで課題に感じることがありましたか。(当てはまること全てに○)

回答	計
行政単独で行うより時間や手間が増えた	86(76)
事業目的・目標を共有できなかった	18(13)
責任の所在が不明確だった	40(28)
行政単独で行うよりコストがかかった	5(10)
協働の相手先の行政への期待値が高すぎた	53(54)
お互いの立場を理解することができなかった	11(7)
協働の相手先の要求・要望に終始してしまった	18(31)
その他	11(19)



【年数別】

回答	～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	31年～
行政単独で行うより時間や手間が増えた	12(10)	17(16)	31(21)	15(12)	11(17)
事業目的・目標を共有できなかった	4(1)	3(5)	3(3)	4(1)	4(3)
責任の所在が不明確だった	4(4)	10(8)	10(8)	7(2)	9(6)
行政単独で行うよりコストがかかった	0(2)	0(1)	1(2)	3(4)	1(1)
協働の相手先の行政への期待値が高すぎた	11(12)	10(10)	15(11)	9(8)	8(13)
お互いの立場を理解することができなかった	4(2)	2(3)	1(2)	2(0)	2(0)
協働の相手先の要求・要望に終始してしまった	4(9)	3(4)	7(8)	3(2)	1(8)
その他	3(4)	3(4)	0(5)	4(3)	1(3)

【階級別】

回答	一般職	監督職	管理職以上	不明
行政単独で行うより時間や手間が増えた	35(33)	25(21)	26(21)	0(1)
事業目的・目標を共有できなかった	9(8)	2(2)	7(3)	0(0)
責任の所在が不明確だった	16(15)	9(8)	15(5)	0(0)
行政単独で行うよりコストがかかった	1(6)	3(2)	1(2)	0(0)
協働の相手先の行政への期待値が高すぎた	19(23)	17(12)	17(19)	0(0)
お互いの立場を理解することができなかった	6(3)	1(3)	4(1)	0(0)
協働の相手先の要求・要望に終始してしまった	9(15)	6(8)	3(8)	0(0)
その他	4(10)	2(5)	5(4)	0(0)

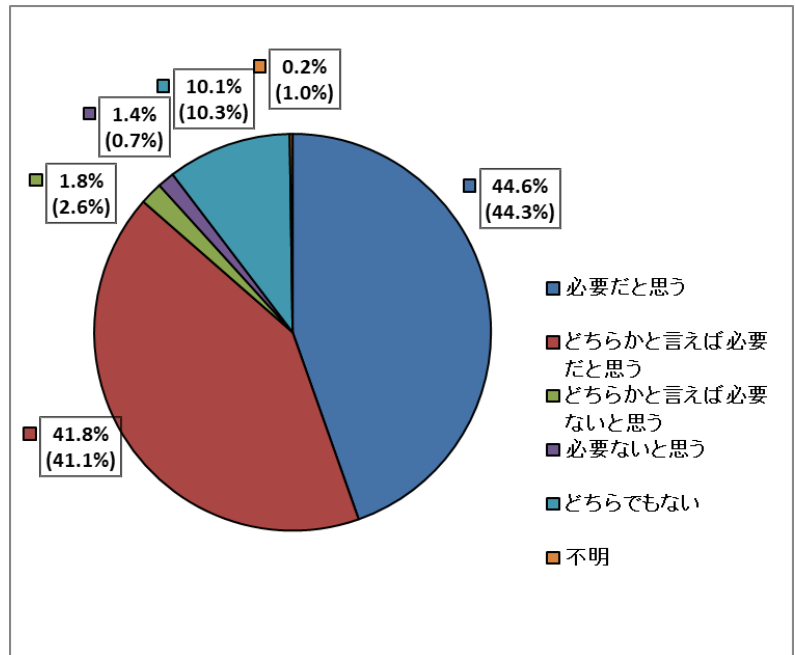
- 平成 29 年度のアンケートと同様に「行政単独で行うより時間や手間が増えた」「協働の相手先の行政への期待値が高すぎた」の回答が多い結果となりました。

その他

- ・業務に対する思い、広い知識、生き方や人間性を問われる部分があり、難しさを感じた（よい刺激にはなった）
- ・協働の相手先の高齢化により、力仕事など配慮しなければならない。
- ・市としてどこまで対応できるかが明確でないと、かつ互いにその情報を把握し理解しないと、計画からして話が進まない。（そのまま事業を進めると大惨事になる）
- ・一時的には行政単独で行うより時間や手間が増えるが、長期的に考えると逆に減ると思う。
- ・協働先のみ考えになってしまう可能性を感じた。そこ以外の市民の、地域にも広くアンテナをもっておく必要を感じた。
- ・実施中で手探り中
- ・一部の参加者（市民）との合意で、市民全体の合意ではない。
- ・目的達成又はニーズの減少に応じて、解散・整理することは難しい。
- ・相手先の一部の構成員に負担が偏った。
- ・常に近くにいない分、距離感や情報共有の頻度を意識しなければ希薄になりがち

- 問4. 長岡京市と協働についておたずねします。
 - ◆ 4-1. 今後長岡京市で協働を進める必要があると思いますか？

回答	計
必要だと思う	194(185)
どちらかと言えば必要だと思う	182(172)
どちらかと言えば必要ないと思う	8(11)
必要ないと思う	6(3)
どちらでもない	44(43)
不明	1(4)



【年数別】

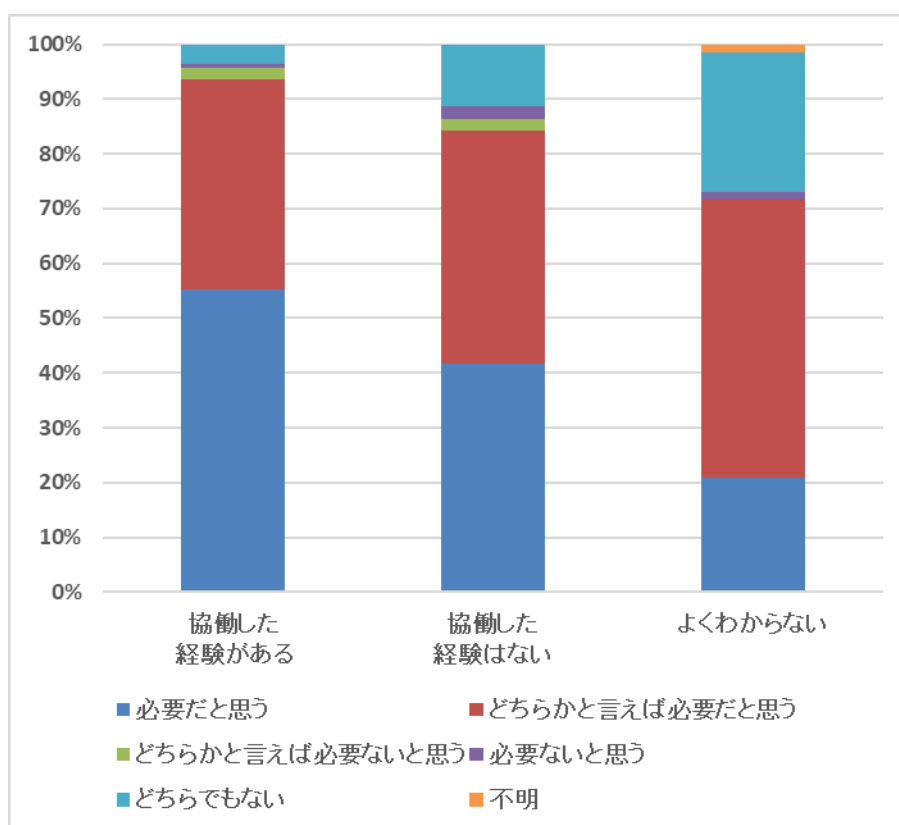
回答	～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	31年～
必要だと思う	44(52)	49(45)	48(33)	28(21)	25(34)
どちらかと言えば必要だと思う	44(41)	50(45)	50(31)	22(30)	16(25)
どちらかと言えば必要ないと思う	3(2)	0(2)	1(2)	2(4)	2(1)
必要ないと思う	0(0)	1(3)	4(0)	1(0)	0(0)
どちらでもない	6(4)	5(10)	11(13)	15(11)	7(5)
不明	0(1)	0(0)	0(2)	0(0)	1(1)

【職級別】

回答	一般職	監督職	管理職以上	不明
必要だと思う	100(113)	36(34)	58(37)	0(1)
どちらかと言えば必要だと思う	128(115)	30(36)	24(21)	0(0)
どちらかと言えば必要ないと思う	5(8)	1(2)	2(1)	0(0)
必要ないと思う	5(3)	1(0)	0(0)	0(0)
どちらでもない	34(35)	8(5)	1(1)	1(2)
不明	1(3)	0(0)	0(1)	0(0)

- 「必要だと思う」「どちらかと言えば必要だと思う」と回答した職員が85%以上を占めており、必要だと考えている職員が大半であることが分かりました。

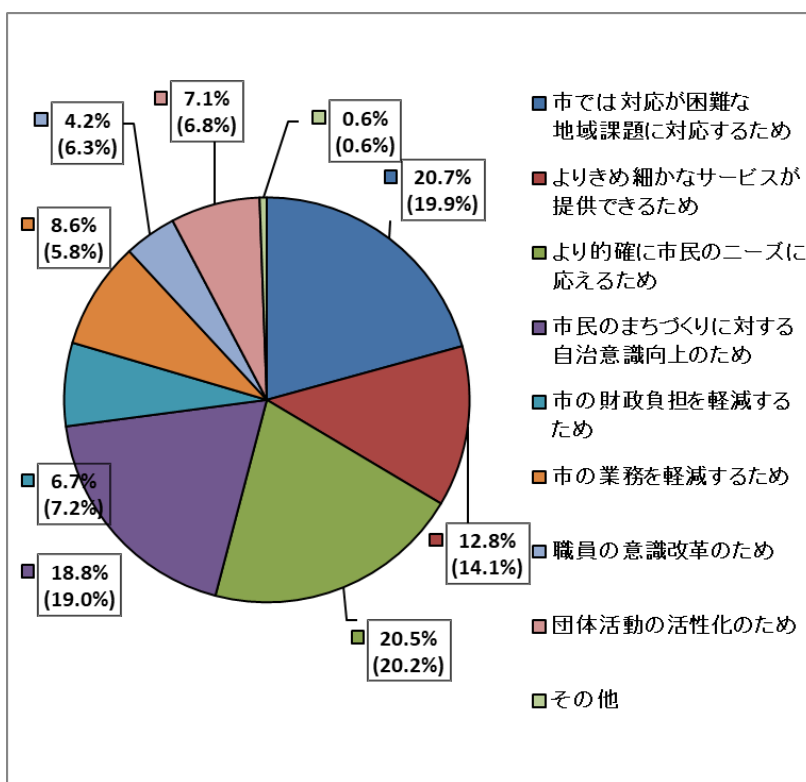
	協働した経験がある	協働した経験はない	よくわからない	不明
必要だと思う	105	74	14	1
どちらかと言えば必要だと思う	73	75	34	0
どちらかと言えば必要ないと思う	4	4	0	0
必要ないと思う	1	4	1	0
どちらでもない	7	20	17	0
不明	0	0	1	0



- 問3-1と問4-1をクロス集計すると「協働した経験がある」を選んだ職員で、「協働が必要だと思う」「どちらかと言えば必要だと思う」を選んだ職員は9割以上となりました。協働の経験がある職員のほうが、協働を必要だと感じている結果となりました。

4-2. 問4-1で「①または②」を選んだ方にお聞きします。
 協働が必要だと思う理由はなんですか？(当てはまること全てに○)

回答	計
市では対応が困難な地域課題に対応するため	218(215)
よりきめ細かなサービスが提供できるため	135(152)
よりの確に市民のニーズに応えるため	216(218)
市民のまちづくりに対する自治意識向上のため	198(205)
市の財政負担を軽減するため	70(78)
市の業務を軽減するため	90(63)
職員の意識改革のため	44(68)
団体活動の活性化のため	75(73)
その他	6(7)



【年数別】

回答	～5年	6年～10年	11年～20年	21年～30年	31年～
市では対応が困難な地域課題に対応するため	46(58)	64(61)	56(36)	33(29)	19(31)
よりきめ細かなサービスが提供できるため	26(43)	37(37)	35(22)	21(20)	16(30)
よりの確に市民のニーズに応えるため	51(62)	56(47)	52(37)	32(31)	25(41)
市民のまちづくりに対する自治意識向上のため	39(49)	45(50)	55(38)	30(32)	29(36)
市の財政負担を軽減するため	8(18)	24(19)	17(14)	12(12)	9(15)
市の業務を軽減するため	21(21)	32(18)	22(5)	6(6)	9(13)
職員の意識改革のため	10(18)	11(18)	10(9)	8(10)	5(13)
団体活動の活性化のため	22(24)	17(20)	13(11)	14(9)	9(9)
その他	2(2)	1(1)	2(3)	1(0)	0(1)

【職級別】

回答	一般職	監督職	管理職以上	不明
市では対応が困難な地域課題に対応するため	128(125)	38(52)	52(38)	0(0)
よりきめ細かなサービスが提供できるため	83(92)	22(29)	30(30)	0(1)
よりの確に市民のニーズに応えるため	127(136)	45(41)	44(40)	0(1)
市民のまちづくりに対する自治意識向上のため	94(118)	41(44)	63(43)	0(0)
市の財政負担を軽減するため	33(37)	12(22)	25(19)	0(0)
市の業務を軽減するため	54(39)	16(11)	20(13)	0(0)
職員の意識改革のため	24(38)	7(16)	13(14)	0(0)
団体活動の活性化のため	44(47)	13(13)	18(12)	0(1)
その他	3(1)	1(2)	2(4)	0(0)

- 「市の財政負担を軽減するため」や「市の業務を軽減するため」よりも、「市では対応が困難な地域課題に対応するため」や「よりの確に市民のニーズに応えるため」に協働が必要だと答える職員が多い結果となりました。

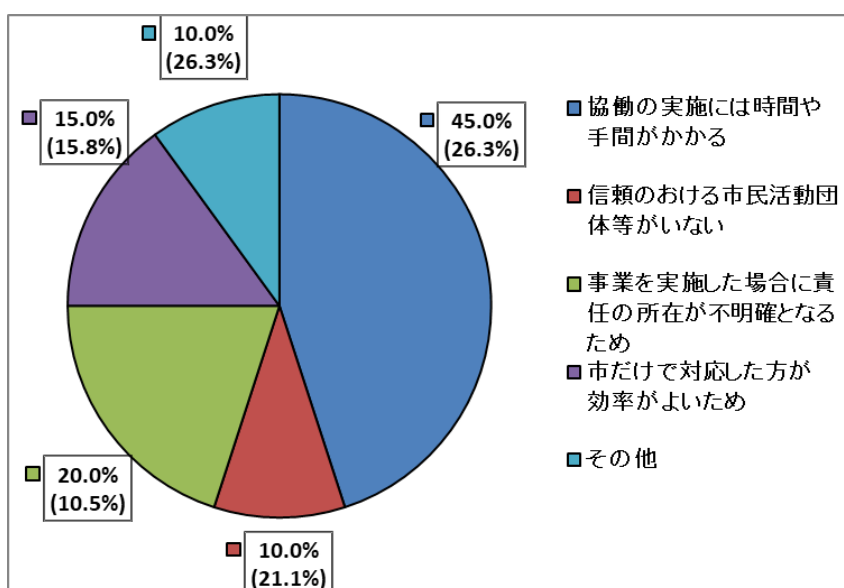
その他

- 目的、目標の明確化と共有が必要。お互いの立場を理解して、役割、責任の明確化が必要。
- 市の活性化のため
- 責任や仕事が偏ることを防ぐため
- 市民との繋がりを深められる
- 市民、職員一緒にまちづくりをしていく共者における意識向上
- Civic Pride の情勢
- 行政が直営で全てをになうのは困難。地域資源、専門家、民間企業等、社会全体で公共をになう視点が必要
- 行政だけが市を作っているのではない。職員が市民ニーズを把握すること、市民が市の動きを知ること両面で協働していくことが不可欠

4-3. 問4-1で「③または④」を選んだ方にお聞きします。

協働が必要ないと思う理由は何ですか？(当てはまること全てに○)

回答	計
協働の実施には時間や手間がかかる	9(5)
信頼のおける市民活動団体等がない	2(4)
事業を実施した場合に責任の所在が不明確となるため	4(2)
市だけで対応した方が効率がよいため	3(3)
その他	2(5)



(※職級別、階級別については、母数が少数のため表にしません。)

➤ 母数は少ないですが、「協働の実施には時間や手間がかかる」の回答が多い結果となりました。

その他

・現在の協働が市と市民が対等の立場で実施するものばかりではなく、負担感の方が大きい。全く必要ないとは思いませんが、そんなに力を入れなくてもよいのではないのでしょうか。(自分自身が住んでいる市や地域で協働したことはなく、困ったり不満を感じたこともないので、協働の必要性がよくわかっていない面もあります。)

・住民の目線からすると、住民だけで対応した方が効率の良いことはいくらかでも考えているので。市は「協働が必要だ～」というスタンスを取っているが、住民が協働を欲しているかどうかは考えねばならぬだろう。